

2022年6月27日
オリックス株式会社

第59回定時株主総会 質疑応答要旨

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにご来場を見合わせていただきました株主さまへのご参考情報として、インターネットを通じた事前質問および当日の会場でのご質問に関し、質疑応答の要旨を以下のとおりご紹介いたします。

【概要】

開催日時：2022年6月24日（金）10：00～11：55（所要時間：1時間55分）

開催場所：グランドプリンスホテル新高輪「飛天」

来場株主数：336名（ご参考：昨年167名）

【事前質問に対するご回答】

< 1 >

質問：第2号議案（取締役選任議案）について

回答：社外取締役のみで構成される指名委員会において候補者を決定している。当社の複雑で多様な事業を監督する取締役会は、全体として知識・経験・能力のバランスと多様性が確保されたメンバー構成であることが重要であり、独立した客観的な立場から当社の経営の監督を担える方を社外取締役の候補者としている。

会社法の定める取締役の任期に加えて、当社の指名委員会規則において、独立性を担保する目的で、社外取締役の在任年数を原則6年、これを超える場合でも7年を限度と定めている。

今回、竹中氏が取締役を退任され、また新任候補者として柳川氏を上程している。竹中氏は在任7年での委員会規則に則ったご退任、柳川氏は、金融経済全般に関する豊富な知識・経験を有し、また政策通であり社外取締役に適任との指名委員会の決定を受けて候補者とした。

< 2 >

質問：社外取締役候補者の兼職について

回答：2022年3月期において、取締役会は9回、監査委員会は12回、指名委員会は7回、報酬委員会は4回、それぞれ開催した。非公式会議も含めた全ての会議体に社外取締役全員が出席し、多くの時間を割いて活発な議論が行われた。他社との兼職を有する取締役に関しても取締役会としての監督・監視業務に支障が出ているケースは無く、今後も問題なく運営出来ると考えている。

< 3 >

質問：オリックス銀行の預金利率の引き上げについて

回答：オリックス銀行では、現状、魅力的な預金金利のご提供に尽力しており、また今後もお客様のニーズにお応えする商品・サービスの向上に努めて参りたい。

< 4 >

質問：割安な株価水準について

回答：現在の株価水準が割安である一因は、コングロマリットディスカウントおよび金融業界全体の低いPBRが関係していると考えている。また、財務レバレッジが、リーマンショック時は4倍であったのが足もとでは1.5倍であることも一因と考えるが、財務健全性を維持することも重要であると考えている。このため、業績の向上を通じて株価水準を上げることは経営のミッションと認識している。

< 5 >

質問：為替変動の業績への影響について

回答：当社の国内外のポートフォリオは、為替変動に対してバランスが取れており、また、海外投資は為替リスクをヘッジすることを原則としている。円安時には海外資産の流動化、円高時には海外投資の加速という図式を念頭に置きつつ、実際の判断においては個々の投資先およびその業界の状況による。過去の極端な円高・円安相場を乗り切った経験を活かし、今後とも健全な対応を図る。

< 6 >

質問：株主優待の廃止について

回答：株主優待に関わる年間のコストは約30億円（1株あたり2.4円）。2022年3月期の1株当たり配当金額は85.6円。2025年3月期に当期純利益4,400億円を達成出来た場合、自社株買いによって変動するものの、1株あたり配当金額は120円を超える計算になる。株主優待廃止は2025年3月期であり、2022年3月期分を含めて3回は優待を実施する予定であり。今回、突然に優待を廃止する訳ではないことはご理解賜りたい。

< 7 >

質問：京セラドーム大阪の集客について

回答：2019年の観客数は173万人（1試合あたり24,300人）、コロナ禍の2020年は33万人（同5,500人）、2021年は43万人（同6,000人）。2022年は35試合経過時点で66万人（同19,000人）と、コロナ前の水準には依然回復していないものの、今後、着実に通常に戻っていくものと考えている。

< 8 >

質問：小林化工に関する損失および被害者への対応状況について

回答：2022年3月期決算において説明させて頂いた通り、小林化工に関わる減損306億円を当期に計上し、これにはご遺族の方、健康被害に遭われた方々への補償を含んでいる。小林化工において既に殆どの方々よりご理解を頂いており、引き続き、誠意をもって対応を進めていく。

< 9 >

質問：宮内義彦シニア・チェアマンの当社の経営に関する役割について

回答：宮内氏はシニア・チェアマンとして対外的な活動を行っているが、当社の経営の意思決定には一切関わっておらず、また、業務執行についても関与はしていない。

< 1 0 >

質問：マンションの施工不良およびマンション管理業務について

回答：個別事案に対して当社株主総会で逐一回答すべき質問ではないものの、施工業者、または事業主である大京による修繕やその費用負担について適切に対応、あるいは理事会に対して修繕工事を提案させていただいていると理解している。調査が終わっていない事案もあるが、責任をもって処理にあたっているとの報告を受けている。またマンション管理業務について、管理会社は組合理事会様との管理契約に基づいて、理事会様の決定した事項に対処することが役割であり、理事会の決定を通じて管理会社に要請頂いた事項に粛々と対応していく。

【当日の主な質疑応答】

< 1 1 >

質問：オリックス銀行の住宅ローン金利における変動金利の割合

回答：基本的に全てが変動金利であり、長期プライムレート、短期プライムレートに連動して一定の期間で変動する契約形態だが、変動後も暫く毎月返済額を据え置く商品を提供している。

< 1 2 >

質問：うつ病等の疾病による休職に伴う給与支給期間について

回答：オリックス(株)においては、勤続年数に応じて、最大3年間対応している。

< 1 3 >

質問：報酬における男女差について

回答：社員の報酬は担う役割に応じて決定しており、同じ役割であれば、男女の報酬に差はない。

< 1 4 >

質問：蓄電池事業の可能性について

回答：太陽光、風力という再生可能エネルギーは天候によって発電量が左右するため、蓄電池の普及は非常に重要。10年ほど前から NEC 様とのジョイントベンチャーである ONE エネルギーで、蓄電池のレンタルや販売を手掛けている。ベンダーニュートラルで良い品質のものを良い価格で提供することを引き続きやっていく。大型蓄電池については、関西電力様と共同で関西地区での事業化を進める予定。

< 1 5 >

質問：DX 戦略について

回答：10 のセグメントで個別に DX 化を進めている。基本的にはグループのグローバルなポートフォリオの見える化、ダッシュボード化を進め、世界中のポートフォリオを瞬時に把握し、イエローカード、レッドカードが迅速に出るようなシステムを構築中。システム関連の組織体制としては、オリックス・システム社、テクノロジー統括部、情報セキュリティ統括部があり、テクノロジー統括部を中心にすべてのセグメントのポートフォリオの CRM 化等を進めているが、完成までには数年の時間軸で見て頂く必要がある。DX 化における課題は適切な人材確保。優れた IT 人材はマーケットで枯渇しているが、社内での人材育成と社外からの採用活動の双方に注力している。

< 1 6 >

質問：ウクライナ情勢を踏まえた台湾有事のリスクについて

回答：台湾に対するエクスポージャーは 700 億円、大半がリース資産。台湾有事の可能性については色々な方から知見を受けており、ロシアのウクライナ侵攻のような戦闘が展開されるリスクを指摘する声は極めて限定的だが、未だ定見はないのが実態。当面は今秋の中国全人代で習近平氏の再選が明確化されるまで大きな動きはないだろうが、それ以降、動きがあるかもしれないもの見極めが非常に難しい。現在のエクスポージャーを急激に落とすことが今は適切ではないため、今後も十分にリスクを注視していく。

< 1 7 >

質問：天候の影響を受けにくい太陽光発電所の開発について

回答：当社では、北は北海道から南は九州・沖縄まで、全国 100 か所以上の太陽光発電所を運営している。オリックス・リニューアブルエナジー・マネジメントという太陽光発電所の運営管理会社を作っており、北海道では除雪業者様ともパートナーシップを組み、適切なタイミングでの除雪を行いながら運転をしている。今後も地域特性に合わせた適切な発電所の設計・建設・運営を行い、太陽光発電の普及に努めていきたい。

< 1 8 >

質問：球団保有について

回答：球団は持ち続けるのが基本方針。万一、当社の経営が非常に厳しくなって球団を手放さざるを得ない状況にでもなれば別だが、今の状態で球団を手放すインセンティブは無い。優勝に限らずとも、2 位、3 位といった成績でも広告宣伝効果は十分にあり、試合での勝利を重ねて頂きたいと考える。また球場設備の快適な利用環境への改修投資は球団が積極的に実施していると認識している。

< 1 9 >

質問：2023年3月期の利益目標について

回答：短期的な利益目標は公表していないが、仮に純利益が2022年3月期の水準を下回ったとしても85.6円の配当は維持させていただく。2025年3月期までの計画を発表させていただいたのは、1年目、2年目は投資の期間、布石の期間とさせていただきたいと考えてのことであり、ご理解賜りたい。

< 2 0 >

質問：監査法人への報酬金額および選任について

回答：監査法人に対する当期の報酬は765百万円である。監査委員会は、毎年、会計監査人を評価するための基本方針に基づき、品質管理体制、グローバルな実施体制、コミュニケーション能力など総合的に評価している。そういった中から、現時点ではあずさ監査法人を選任することが適当と考えている。

< 2 1 >

質問：水素関連への投資について

回答：当社が直接的に技術開発を行うことはなく、プライベートエクイティの投資対象にはなるかもしれないが、現在、水素を資源として利用するための技術投資は行っていない。

< 2 2 >

質問：法人営業・メンテナンスリースセグメントの業績について

回答：世界的なサプライチェーンの混乱に伴う半導体不足を原因とした中古車価格の上昇、中古パソコン価格の上昇により、リースの更新需要や売却益が押し上げられ、オリックス自動車とオリックス・レンテックは史上最高益を計上した。オリックス(株)の法人営業部門も交付された給付金の適切な活用に関するご相談を頂く中で、生命保険の販売が前期に比べて伸びた。

< 2 3 >

質問：販売または管理するマンションにおける品質問題や住民からの苦情について

回答：品質に問題がある場合は施工会社等に直接申し出て頂き、弊社としては調査のうえ誠実に対応していく所存。また管理業務につきましても、理事会様との契約に基づいて、理事会様の決定に従い管理受託者として適切に対処していく所存。個々の住民の方々との直接的な対応は契約上、適切ではないと認識している。オリックスの経営・事業全般に関する株主様からのご質問やご意見は承りますが、個別のマンションに関するお問い合わせは直接、当該会社にお尋ね頂きたい。

お問合せ先：

オリックス株式会社 IR・サステナビリティ推進部

電話：03-3435-3121